

戦後80周年

平和へのプロジェクト 序章 ～そして、未来へ～

北九州市 Kitakyushu City Museum of Peace

平和のまちミュージアム

平和学習・情報発信の拠点である北九州市平和のまちミュージアムでは、戦後80年の節目の年を迎え、これからも戦争の記憶を風化させることなく、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さ等について学び、未来へ継承していくため、『平和へのプロジェクト 序章 ～そして、未来へ～』を開催します。

ご取材方、よろしくお願いいたします。

なお、当日の取材要領は、開催時期が近づきましたら、お知らせいたします。

◆ 事業内容・目的 : 先の大戦で市街地空襲を受けた都市等（広島県福山市、大阪府堺市、東京都国立市）の青少年を北九州市に招き、各都市の戦時下の状況や、現在の平和に関する取り組みなどを紹介する「パネルディスカッション」、終戦間際の小倉を舞台に、戦争に向き合い、当時を生きた若者たちを表現した演劇、『激流ノ果テ-北九州特別公演-』（株式会社東俳）の上演を行い、戦争の体験を共有し、若者の“活動”について広く発信することで、次世代への記憶の継承、地域を超えた連携など、平和の取り組みの重要性を訴えます。

◆ 開催日時 : 令和7年8月17日（日） 11:00～

◆ 開催場所 : J:COM 北九州芸術劇場 6F 中劇場

◆ プログラム : 予定

11:00 開会

11:15 第1部 パネルディスカッション

* テーマ:「(仮) 都市の文化・歴史、そして、未来へ繋がる平和の活動」

* 進行: 北九州市平和のまちミュージアム館長 重信幸彦

* 登壇者: 福山市（2名）、堺市（2名）、国立市（2名）、

北九州市（2名）、株式会社東俳（高橋智也さん、村山輝星さん）

12:30 休憩

14:00 第2部 『激流ノ果テ-北九州特別公演-』公演

16:00 閉会



高橋智也さん



村山輝星さん

◆ 一般観覧者 : 定員 350人（観覧無料）

◆ 観覧申込 : 往復はがきによる事前申し込み（「市政だより」7月1日号 掲載予定）

※応募者多数の場合は抽選となります。

■ パネルディスカッション参加自治体 等

広島県 福山市 / 大阪府 堺市 / 東京都 国立市 / 福岡県 北九州市 より各2名（中学生～大学生）参加 / (株)劇団東俳（高橋智也さん、村山輝星さん）

■ (株) 劇団東俳

劇団東俳は1963年に設立し、その後厚生労働大臣許可を取得して才能あふれる新人タレントを養成し、マスコミ・芸能界に送り出してきました。1歳から上は90代の熟年世代まで幅広い年齢のタレントが活動し、ドラマ・映画・CM・バラエティー番組への出演の他、年に6本の自主製作の舞台公演を行い、近年は演劇祭でも大賞をはじめ様々な賞に入賞を果たしている。

東京都豊島区に本社を置き、大阪府大阪市北区に関西支社、また埼玉県狭山市、静岡県静岡市にレッススタジオがある。

■ 『激流ノ果テ - 北九州特別公演 -』

(株)劇団東俳（脚本・演出 高橋智也） / 『第34回 池袋演劇祭』大賞受賞作品

○ストーリー（内容は変更となる場合もございます。）



ここは北九州。太平洋戦争末期

昨日も空襲があった。逃げ惑う人達の中、妙子は必死に高台を駆け上がった。駆け抜ける兵隊達。人々の叫び声はやがて爆音に掻き消された。

防空壕から飛び出した妙子の行方を誰も知らなかった。彼女は誰かを探していたのか、それとも…。

翌日、山道に倒れていたところを近所の住民に見つけられ、保護された。運び込まれた自分の家で、彼女は目を覚ます。

近所の住人・武田フミは安堵し胸を撫で下ろした。しかし、次の瞬間少女の口から出た言葉にフミは耳を疑った。「あの…、どなたですか…？」

私の名前は向島妙子。歳は18才
母は既に他界しており、兄は戦地に出向いた。
そして昨日、国民学校の教師であった父までも徴兵されたいらしい。
黙って家を出た父を探している最中に、空襲に遭ったのだという。

目を覚ました私は様々な事を忘れていた。
自分の名前や、家族の事、近所の住人の事、そして「戦争」についても。

これは終戦間際を生きた“戦争を忘れた私”の記録。
私は“妙子”を知りたいと思った。

〔 問合せ先 〕

総務市民局 平和のまちミュージアム事務局

〒803-0813 北九州市小倉北区城内4番10号

TEL：(093)592-9300

担当：居蔵(事務局長)、三角(企画係長)